

科学技術・学術審議会の構成について

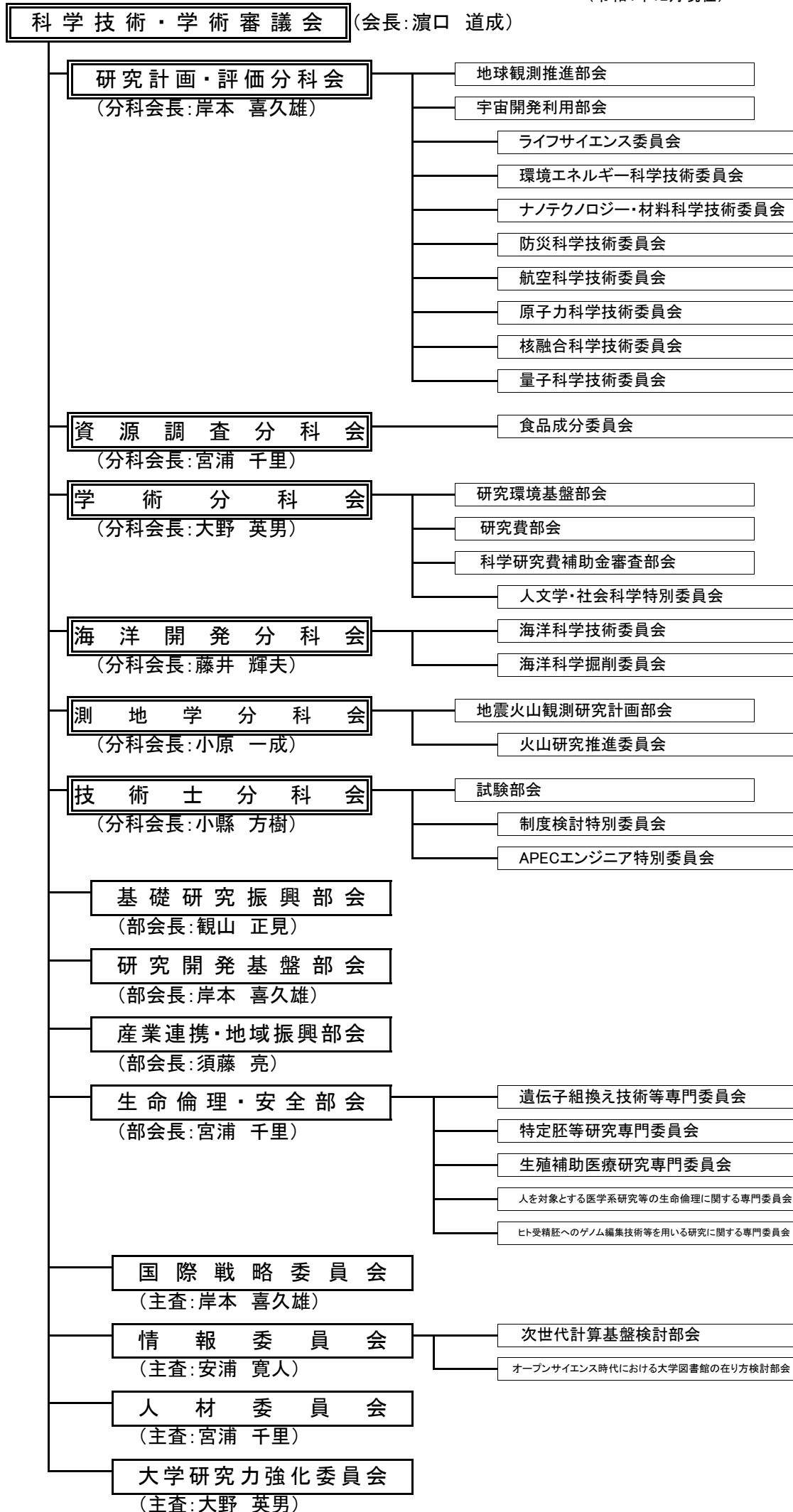
(令和4年12月現在)

資料1-1-1

科学技術・学術審議会

総会 (第69回)

R4.12.23



第11期科学技術・学術審議会 会長・分科会長・代理等一覧

会議	会長等	会長代理等
科学技術・学術審議会	濱口 道成	須藤 亮
研究計画・評価分科会	岸本 喜久雄	高梨 弘毅
地球観測推進部会	春日 文子	小縣 方樹
宇宙開発利用部会	村山 裕三	鈴木 桂子
ライフサイエンス委員会	宮園 浩平	西田 栄介
環境エネルギー科学技術委員会	原澤 英夫	本郷 尚、関根 泰
ナノテクノロジー・材料科学技術委員会	高梨 弘毅	五十嵐 正晃
防災科学技術委員会	上村 靖司	小原 一成
航空科学技術委員会	李家 賢一	山岡 建夫
原子力科学技術委員会	出光 一哉	中島 健
核融合科学技術委員会	上田 良夫	大野 哲靖
量子科学技術委員会	上田 正仁	大森 賢治
資源調査分科会	宮浦 千里	門間 美千子
食品成分委員会	門間 美千子	瀧本 秀美
学術分科会	大野 英男	須藤 亮
研究環境基盤部会	観山 正見	小長谷 有紀
研究費部会	大野 英男	白波瀬 佐和子
科学研究費補助金審査部会	※	※
人文学・社会科学特別委員会	城山 英明	小林 良彰
海洋開発分科会	藤井 輝夫	小原 一成
海洋科学技術委員会	河村 知彦	
海洋科学掘削委員会	川幡 穂高	
測地学分科会	小原 一成	田中 明子
地震火山観測研究計画部会	小原 一成	田中 明子
火山研究推進委員会	橋本 武志	藤田 英輔
技術士分科会	小縣 方樹	岸本 喜久雄
試験部会	岸本 喜久雄	鈴木 桂子
制度検討特別委員会	岸本 喜久雄	塩原 亮一
APECエンジニア特別委員会	未定	未定
基礎研究振興部会	観山 正見	天野 浩
研究開発基盤部会	岸本 喜久雄	高橋 祥子
産業連携・地域振興部会	須藤 亮	栗原 美津枝
生命倫理・安全部会	宮浦 千里	小川 毅彦
遺伝子組換え技術等専門委員会	三浦 竜一	金井 正美、片山 和彦
特定胚等研究専門委員会	小川 毅彦	小板橋 律子
生殖補助医療研究専門委員会	大須賀 穰	後藤 弘子
人を対象とする医学系研究等の生命倫理に関する専門委員会	祖父江 友孝	戸田 達史
ヒト受精卵へのゲノム編集技術等を用いる研究に関する専門委員会	久慈 直昭	日山 恵美
国際戦略委員会	岸本 喜久雄	狩野 光伸
情報委員会	安浦 寛人	深澤 良彰
次世代計算基盤検討部会	安浦 寛人	小林 広明
オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方検討部会	竹内 比呂也	尾上 孝雄
人材委員会	宮浦 千里	宮田 満
大学研究力強化委員会	大野 英男	梶原 ゆみ子

※審査に係るため非公表

第11期における審議状況

分科会等名	主な審議事項・報告等	開催状況
総会	<p>【主な審議事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 第11期の活動について ○ 委員会の設置について ○ 我が国の研究力強化に向けたエビデンス把握について ○ 大学研究力強化に向けた取組について <p>【報告等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ なし 	<p>前回：令和 4年10月13日 次回：未定 第11期開催実績：4回</p>
研究計画・評価分科会	<p>【主な審議事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 研究開発課題の評価について ○ 分野別研究開発プランについて ○ 分野別研究開発プログラム評価の今後の進め方、プログラム評価のフォーマットについて <p>【報告等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 航空科学技術分野に関する研究開発ビジョン ○ 分野別研究開発プラン 	<p>前回：令和 4年11月16日 次回：令和 5年 1月31日 第11期開催実績：8回</p>
資源調査分科会	<p>【主な審議事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 第11期資源調査分科会の検討事項について ○ 日本食品標準成分表の充実・利活用を含めたあり方の検討について <p>【報告等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ なし 	<p>前回：令和 4年12月14日 次回：未定 第11期開催実績：2回</p>
学術分科会	<p>【主な審議事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学術研究の振興方策について ○ 科研費制度の改善・充実方策について ○ 共同利用・共同研究体制の在り方について ○ 人文学・社会科学の振興方策について <p>【報告等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 科学研究費助成事業「審査区分表」の改正等について (令和4年3月9日 科学研究費補助金審査部会) ○ 「総合知」の創出・活用に向けた人文学・社会科学振興の取組方針 (令和3年8月24日 人文学・社会科学特別委員会) 	<p>前回：令和 4年11月 9日 次回：令和 5年 2月 9日 第11期開催実績：4回</p>
海洋開発分科会	<p>【主な審議事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 第4期海洋基本計画に向けた海洋科学技術の重要事項について ○ 海洋科学掘削について ○ 東北マリンサイエンス拠点形成事業に関する事後評価 ○ 海洋生物資源確保技術高度化に関する事後評価 <p>【報告等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今後の海洋科学技術の在り方について（提言）～国連海洋科学の10年、関連する主な基本計画を踏まえ～ ○ 今後の海洋科学掘削の在り方について（提言） 	<p>前回：令和 4年12月 7日 次回：未定 第11期開催実績：4回</p>
測地学分科会	<p>【主な審議事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地震火山観測研究計画の進捗管理 ○ 火山観測研究の推進 ○ 「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画（第2次）」のレビュー報告書の取りまとめ ○ 次期観測研究計画の検討 <p>【報告等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画（第2次）」の実施状況等のレビュー報告書（令和4年2月16日 測地学分科会） 	<p>前回：令和 4年 9月27日 次回：令和 5年 1月頃 第11期開催実績：3回</p>
技術士分科会	<p>【主な審議事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 技術士資格の国際的通用性の確保 ○ 技術士試験の適正化 ○ 技術士補制度の見直し・IPD 制度の整備・充実 ○ 継続研さん・更新制の導入 ○ 総合技術監理部門の位置付けの明確化 ○ 技術士制度の活用促進・普及拡大 <p>【報告等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 技術士試験の試験委員の推薦、試験方法及び実施並びに試験科目及び受験資格に関する事項（科学技術・学術審議会運営規則第4条第5項に基づき、分科会の議決をもって審議会の議決とする事項） 	<p>前回：令和 4年 3月15日 (書面審議) 次回：令和 5年 1月25日 第11期開催実績：2回</p>

分科会等名	主な審議事項・報告等	開催状況
基礎研究振興部会	<p>【主な審議事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）について ○ 2030年に向けた数理科学の展開について ○ 研究DXの推進について ○ 創発的研究支援の充実に向けて <p>【報告等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ なし 	<p>前回：令和 4年 7月 7日 次回：令和 5年 1月頃 第11期開催実績：3回</p>
研究開発基盤部会	<p>【主な審議事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 先端研究施設・設備・機器の整備・共用 <p>【報告等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ なし 	<p>前回：令和 4年12月15日 次回：令和 5年 2月 8日 第11期開催実績：7回</p>
産業連携・地域振興部会	<p>【主な審議事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の中核となる大学の振興（社会実装関係） ○ 大学を中心としたスタートアップ・エコシステム形成の推進 ○ 産学官連携による新たな価値共創の推進 <p>【報告等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ なし 	<p>前回：令和 4年 7月22日 次回：令和 5年 1月25日 第11期開催実績：5回</p>
生命倫理・安全部会	<p>【主な審議事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針の改正について ○ 個人情報保護法の改正を踏まえた関係指針の改正について <ul style="list-style-type: none"> ・ ヒト受精胚の作成を行う生殖補助医療研究に関する倫理指針 ・ ヒト受精胚に遺伝情報改変技術等を用いる研究に関する倫理指針 ・ ヒトES細胞の樹立に関する指針 ・ ヒトES細胞の分配機能に関する指針 ・ ヒトES細胞の使用に関する指針 ・ ヒトiPS細胞又はヒト組織幹細胞からの生殖細胞の作成を行う研究に関する指針 ○ CSTI第三次報告を踏まえた生命倫理・安全部会における関係指針見直しの検討事項及び検討体制について <p>【報告等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ なし 	<p>前回：令和 4年10月 5日 次回：令和 5年 2月 8日 第11期開催実績：5回</p>
国際戦略委員会	<p>【主な審議事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 科学技術の国際展開に関する戦略について ○ 先端国際共同研究推進事業に関する事前評価 <p>【報告等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 科学技術の国際展開の戦略的推進に向けて（令和3年6月30日） ○ 科学技術の国際展開に関する戦略（令和4年3月30日） 	<p>前回：令和 4年 8月10日 次回：未定 第11期開催実績：5回</p>
情報委員会	<p>【主な審議事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 情報分野における研究開発の推進方策に関する検討 ○ 次世代計算基盤など学術情報基盤のあり方に関する検討 ○ オープンサイエンス等の動向を踏まえた、これからの大学図書館に求められる役割や機能等に関する検討 ○ 本委員会の所掌に属する課題の評価 <p>【報告等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 次世代計算基盤検討部会 中間取りまとめ（令和3年8月27日 次世代計算基盤検討部会） ○ 第6期科学技術・イノベーション基本計画を踏まえた情報分野の振興方策 取りまとめ（令和4年3月23日） 	<p>前回：令和 4年11月21日 次回：未定 第11期開催実績：13回</p>
人材委員会	<p>【主な審議事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 科学技術・学術分野の人材育成・確保について ○ 博士課程学生を含む若手研究者の育成・支援方策等について <p>【報告等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 第11期科学技術・学術審議会人材委員会 審議まとめ（論点整理） 	<p>前回：令和 4年12月15日 次回：未定 第11期開催実績：5回</p>
大学研究力強化委員会	<p>【主な審議事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 世界と伍する研究大学の実現に向けた大学ファンドの創設について ○ 地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージについて ○ 大学の強みや特色を伸ばす取組の強化（大学研究力関係）について <p>【報告等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ なし 	<p>前回：令和 4年11月 2日 次回：調整中 第11期開催実績：9回</p>

第 11 期の活動状況について

研究計画・評価分科会

科学技術基本法改正や第 6 期科学技術・イノベーション基本計画（以下、「基本計画」という）を踏まえた、第 11 期の活動実績は以下のとおり。

- ・分科会下等の委員会と連携をとり、「分野別研究開発プラン」を策定し、委員会が担当する各分野において重点的・戦略的に推進すべき研究開発の取組や推進方策を定めた。
- ・上記「プラン」等に位置づけられた「研究開発課題」について、引き続き事前、中間、事後評価を実施した。
- ・基本計画に記載されている、研究データの管理・利活用に関する取組や「総合知」の創出・活用に向けた取組を促す観点等から、研究開発課題評価の評価票の見直しを行った。
- ・研究開発プログラム評価については、既存の資料や評価体系を活用可能とすることで屋上屋排除や負担軽減に配慮する形で試行を開始することとした。当該試行においては、分野別委員会等においてプログラム全体の状況を把握し、分野別委員会等から分科会に報告いただくことで、プログラムの進捗状況を確認する。

(第 66 回総会で報告した活動) 第 66 回総会資料から転記

- ・第 6 期科学技術・イノベーション基本計画等を踏まえて、文科省として行うべき研究及び開発の計画等について、分科会下等の委員会との連携をとり審議を進める。
- ・上記計画等の下で文科省として推進する「研究開発課題」については、引き続き、事前・中間・事後評価を行う。
- ・また、研究開発プログラム評価の導入について、評価の屋上屋排除及び負担軽減に配慮しつつ実効性のある評価の在り方について審議を行う。
- ・なお、計画等の審議や評価を行うに当たっては、「総合知」の創出・活用に向けた取組の観点が適切に含まれていることを意識する。

なお、基本計画に記載の目標のうち、科学技術・学術審議会第 12 期の活動において、基本計画の目標達成に向けて特に当分科会で議論を進めていく活動については、今期に行うプログラム評価の試行の結果も踏まえ、基本計画との関係も見ながら、必要に応じ、評価の指標についての議論についても進めていく。

第 11 期の活動状況について

資源調査分科会

科学技術基本法改正や第 6 期科学技術・イノベーション基本計画を踏まえた、第 11 期の活動実績は以下のとおり。

- ・ 日本食品標準成分表の充実・利活用を含めたあり方について、以下のとおり検討を進めた。
- ・ 日本食品標準成分表 2020 年版（八訂）からエネルギー計算に必要な成分値が増加したことから、新規分析食品の収載とあわせて既存食品において未分析となっていた成分値を優先的に分析し、データベースとしての充実度の向上および正確性の向上を図っている。
- ・ また、オープンデータの意義等を踏まえた次期食品成分データベースを構築するため、過去の分析データのデータベースへの取り入れ、分析データからの一般成分の決定手順や各段階での様式のシステム化などの試作を行った。加えて、ドラフト版の公開方法の決定を行うとともに、データ提供の方策検討のため、多様な利用者の利用状況について調査を行った。

（第 66 回総会で報告した活動） 第 66 回総会資料から転記

- ・ 第 6 期科学技術・イノベーション基本計画で求められる「知」の創造に資するため、資源の総合的利用に関する栄養成分の基礎的データ集として「日本食品標準成分表」を位置づける。
- ・ 日本食品標準成分表の充実・利活用を含めたあり方の検討にあたっては、食品成分委員会を設置し、次期改定方針やあり方に加え、①収載食品の更新・充実、②デジタル社会での多様な利用を見据えた食品成分データの利活用推進方策の検討と精度・信頼性の向上、③国内外動向調査を行う。
- ・ 特に、オープンデータの意義等を踏まえた食品成分データとするため、一般成分の決定手順や各段階での様式のシステム化など必要な検討を行う。また、ドラフト版の公開や関係省庁の利用状況を把握による多様な利用に対するデータ提供などの方策を検討する。

第 11 期の活動状況について

学術分科会

科学技術基本法改正や第 6 期科学技術・イノベーション基本計画を踏まえた、第 11 期の活動実績は以下のとおり。

「総合知」の創出・活用及びポストコロナ下における科学技術・イノベーション政策の在り方等を念頭に、学術の振興に関する重要事項について調査審議を行った。

・大学共同利用機関法人及び総合研究大学院大学による「連合体」(大学共同利用研究教育アライアンス)の創設に向けた検討状況について聴取し、また、発足後の活動状況について、今後検証予定。

・共同利用・共同研究拠点について、評価及び認定に係る審議を行い、結果を公表した。

・学術研究の大型プロジェクトについて、各プロジェクトの適切な進捗管理を行うとともに、所要の評価に係る審議を行った。また、次期ロードマップの策定について議論を開始し、今期中に策定方針の取りまとめを行う予定。

・国立大学法人運営費交付金(学術研究関係)について、配分等に係る審議を行った。

・「国際先導研究」の創設等による国際共同研究の推進や「特別研究員奨励費」の改善等による若手研究者支援の強化、学術変革領域研究等の審査や審査システムの改善等、科研費制度の改善・充実に係る審議を行った。

・「総合知」の創出・活用について、「総合知」の創出・活用に向けた人文学・社会科学振興の取組方針(R3.8.24)をとりまとめた。また、人文学・社会科学分野における研究データ共同利用のための基盤整備及びデータサイエンスの応用促進の今後の方向性、並びに研究成果に係るモニタリング指標について審議を行った。

(第 66 回総会で報告した活動) 第 66 回総会資料から転記

- ・学術の振興に関する重要事項を調査審議する立場から、「総合知」の創出・活用、ポストコロナ下における科学技術・イノベーション政策の在り方等について検討を行う。「総合知の創出・活用については、「総合知」の創出・活用に向けた人文学・社会科学振興の取組方針(R3.8.24)をとりまとめた。これも踏まえ、具体的に以下の審議を行う。
- ・共同利用・共同研究拠点及び国際共同利用・共同研究拠点の期末評価等に係る審議、並びに「連合体」の取組等を含めた大学共同利用機関法人の在り方について
- ・これまでの科研費改革の検証及び制度全体の不断の見直しを図ること、並びに国際的ネットワークの中で実施すべき研究の支援や若手研究者育成方策等について
- ・人文学・社会科学分野の研究データ共同利用のための基盤整備やデータサイエンスの応用促進の在り方等、「総合知」の創出・活用やポストコロナ下の新たな価値創造へ向けた人文学・社会科学分野への期待に応えるための振興方策について

第 11 期の活動状況について

海洋開発分科会

科学技術基本法改正や第 6 期科学技術・イノベーション基本計画を踏まえた、第 11 期の活動実績は以下のとおり。

「第 6 期科学技術・イノベーション基本計画」に加え、「持続可能な開発のための国連海洋科学の 10 年（2021-2030）」等を踏まえつつ、2023 年度から実施を迎える「次期（第 4 期）海洋基本計画」に向けた提言にもなるよう、令和 3 年 11 月から、幅広い視野で検討を行い、令和 4 年 8 月に「今後の海洋科学技術の在り方について（提言）」をとりまとめた。

※第 68 回科学技術・学術審議会（10 月 13 日）において報告済み

なお、検討に当たっては、第 6 期科学技術・イノベーション基本計画で示された

- 幅広い分野間のデータ連携とデータ駆動型研究等の推進
 - 研究デジタルトランスフォーメーション(研究 DX)による研究の高付加価値化
 - カーボンニュートラルに寄与する革新的な技術開発の実施
 - 経済安全保障の視点も含めた我が国の安全・安心な社会の実現
 - 人文・社会科学の「知」と自然科学の「知」の融合による「総合知」の活用
 - Society5.0 の実現に向けたサイバー空間とフィジカル空間との融合
- なども念頭に議論を行っている。

また、令和 4 年 4 月に海洋生物資源確保技術高度化事業、東北マリンサイエンス拠点形成事業（海洋生態系の調査研究）の事後評価を実施した。

さらに、海洋科学掘削分野における現行の国際枠組み（国際深海科学掘削計画（IODP））が 2024 年に終了する予定であること等を踏まえ、我が国の当該分野におけるこれまでの活動実績・成果を振り返り、近年の地球惑星科学の進展、国際協力枠組の変化等を調査した上で、今後 5～10 年を対象期間とした我が国の海洋科学掘削に関する方針等について社会的ニーズなども加味した検討を行い、令和 4 年 12 月に「今後の海洋科学掘削の在り方について（提言）」をとりまとめている。

（第 66 回総会で報告した活動）第 66 回総会資料から転記

- ・持続可能な開発のための国連海洋科学の 10 年(2021-2030)、第 6 期科学技術・イノベーション基本計画等を踏まえつつ、第 4 期海洋基本計画に向けた海洋科学技術の在り方や推進方策について検討を行う。
- ・上記の検討に当たっては、総合知の創出・活用等の観点も念頭に置きながら審議を進める。
- ・文部科学省として推進する海洋科学技術等に関する研究開発課題について、引き続き、事前・中間・事後評価を行う。（令和 3 年度においては、事前・中間評価は該当なし。）

第 11 期の活動状況について

測地学分科会

科学技術基本法改正や第 6 期科学技術・イノベーション基本計画を踏まえた、第 11 期の活動実績は以下のとおり。

- ・「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画（第 2 次）」の推進及び進捗管理を行った。
- ・上記地震火山観測研究計画について、自己点検評価を実施し、令和 4 年 2 月にレビュー報告書を取りまとめた。また、当該報告書並びにそれに基づいて実施された外部評価の結果などを踏まえて、次期の地震火山観測研究計画の策定に向けて、計画案の検討を開始した。
- ・火山の観測研究体制の高度化と最適化を図る観点から「次世代火山研究・人材育成総合プロジェクト」及び「火山機動観測実証研究事業」のフォローアップを実施した。
- ・なお、上記の検討やフォローアップは、「総合知」の活用や社会実装に向けた取組を含む、地震・火山災害に対するレジリエントで安全・安心な社会の構築を目指す様々な観点が適切に含まれていることを意識しながら行った。

(第 66 回総会で報告した活動) 第 66 回総会資料から転記

- ・第 6 期科学技術・イノベーション基本計画等を踏まえて、引き続き、「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画（第 2 次）」の推進及び進捗管理を行う。
- ・上記基本計画を踏まえて、地震火山観測研究計画のレビュー及び次期地震火山観測研究計画の策定に向けた検討を行う。
- ・火山の観測研究体制について、その高度化と最適化を図る観点から「次世代火山研究・人材育成総合プロジェクト」及び「火山機動観測実証研究事業」のフォローアップを行う。
- ・なお、上記の検討やフォローアップを行うに当たっては、「総合知」の活用や社会実装に向けた取組を含む、地震・火山災害に対するレジリエントで安全・安心な社会の構築を目指す様々な取組の観点が適切に含まれていることを意識する。

第 11 期の活動状況について

技術士分科会

科学技術基本法改正や第 6 期科学技術・イノベーション基本計画を踏まえた、第 11 期の活動実績は以下のとおり。

技術士資格の国際的通用性の確保の観点を十分に加味した上で、以下の項目について検討を進めた。

【主な審議事項】

- ・「技術士に求められる資質能力（コンピテンシー）」の改定
- ・技術士試験制度の適正化（外国人エンジニアが受験しやすい試験方法等）
- ・IPD システムの導入
- ・継続研さんの充実・強化
- ・総合技術監理部門の位置付けの明確化
- ・活用促進・普及拡大

【報告等】

技術士試験の試験委員の推薦、試験方法及び実施並びに試験科目及び受験資格に関する事項

（第 66 回総会で報告した活動）第 66 回総会資料から転記

技術士資格の国際的通用性の確保の観点を十分に加味した上で、以下の検討を進める。

- ・技術士第一次試験の適正化及び外国人エンジニア（主に外国人留学生）が受験しやすい試験方法等について
- ・技術士補制度における指導技術士の技術部門限定の是非について
- ・IPD を通した資質能力開発支援を達成するためのロードマップ作成及びコミュニティ形成について
- ・技術士の権利義務に係る更新制の導入や資格活用促進を視野にいたした CPD 活動の促進について
- ・総合技術監理部門の技術士資格を得るために必要な能力の測定方法や名称等について
- ・文部科学省と技術士会が連携した技術士資格の活用の周知について

第 11 期の活動状況について

基礎研究振興部会

科学技術基本法改正や第 6 期科学技術・イノベーション基本計画を踏まえた、第 11 期の活動実績は以下のとおり。

第 11 期の基礎研究振興部会では、我が国の基礎研究のさらなる振興のため、その社会的意義・価値にも着目しながら、以下の具体的な観点から基礎研究の振興について検討を行った。

- ・世界トップレベル研究拠点プログラム (WPI) について、創設から 15 年を経て創出してきた成果を踏まえた今後の方向性(個々の強みを活かした大学の多様化、若手研究者支援等)について議論。
- ・2030 年に向けた数理科学の展開について、学問の体系的な進展と新たな価値を創造していくことが重要であることから、異分野や社会との連携、人材育成等の重要課題について議論。
- ・研究 DX の推進について、新たな価値創造を目指し、デジタル技術とデータ活用によって研究活動を変革していくために必要な取り組みについて議論。
- ・若手を中心とした研究者の挑戦を促すため、創発的研究支援事業の更なる改善について議論。

(第 66 回総会で報告した活動) 第 66 回総会資料から転記

科学技術・イノベーション基本計画における基礎研究の位置づけを踏まえて、基礎研究の共通認識(基礎研究の定義、新型コロナウイルスの影響を含む国内外の動向等)を確認し、

- ・「知」の蓄積及び広がりを持つ意義・価値及び社会的効用
- ・そのような意義・価値を評価する方法
- ・社会にわかりやすく広報する方法
- ・上記の取組に資する人材育成の在り方(研究支援人材等も含む)

などの観点を例として、基礎研究の社会的意義・価値について討議する。

第 11 期の活動状況について

研究開発基盤部会

科学技術基本法改正や第 6 期科学技術・イノベーション基本計画を踏まえた、第 11 期の活動実績は以下のとおり。

- ・先端的な研究基盤の整備・活用や、大学等における研究設備・機器の共用推進を含めた活用の促進に関して、中長期的な視点も踏まえつつ、必要となる施策や取組の議論を行った。
- ・その際、文科省が進める「先端研究基盤共用促進事業」について、「コアファシリティ構築支援プログラム」の令和 2 年度採択機関の中間評価の実施等を通じて、各実施機関の進捗・成果・課題等を把握しつつ、事業の更なる推進方策について議論を行った。
- ・文科省が検討会を設置して定めた「研究設備・機器の共用推進に向けたガイドライン」については、実効性を高めるための観点からの議論を行い、その内容や、活用方策等に関する助言を行った。

(第 66 回総会で報告した活動) 第 66 回総会資料から転記

- ・第 6 期科学技術・イノベーション基本計画等を踏まえ、先端的な研究施設・設備等の研究基盤の整備・高度化・利用や、研究設備・機器に資する基盤技術などの複数領域に横断的に活用可能な科学技術に関する事項に係る審議を進める。
- ・その際、文科省が進める「先端研究基盤共用促進事業」について、事業の推進方策に関する検討を行うとともに、採択機関が行う研究設備・機器の共用に関する先進的な取組の展開を進める。
- ・さらに、今年度中に国が策定する研究設備・機器の共用化のためのガイドライン等について、その内容や、来年度以降の大学等における活用方策等に関する助言を行う。
- ・なお、研究基盤の整備等に関する審議を行うに当たっては、「総合知」の創出・活用に向けた取組の観点も意識する。

第 11 期の活動状況について

産業連携・地域振興部会

科学技術基本法改正や第 6 期科学技術・イノベーション基本計画を踏まえた、第 11 期の活動実績は以下のとおり。

- ・第 6 期科学技術・イノベーション基本計画やスタートアップ、地域の中核となる大学の振興に関する政府での検討状況を踏まえて、文科省として行うべき産学官連携の推進や地域が行う科学技術の振興に関する重要事項について議論した。

- ・具体的には、スタートアップ・エコシステム拠点都市の大学や自治体に取り組を発表いただくと共に、大学発スタートアップ創出の活性化に向けて、国立大学法人等が地銀等民間金融機関が中心となって組成している大学発スタートアップ向けのファンドに LP 出資しやすくする告示改正に関する検討を行った。また、地域の中核・特色ある研究大学の振興の今後の方向性を示し、本格的な組織対組織の産学連携等を含む大学の研究力強化に関する検討を行った。こうした取組により、予算要求等及び告示改正 (R4. 4. 1) に寄与した。

(第 66 回総会で報告した活動) 第 66 回総会資料から転記

- ・第 6 期科学技術・イノベーション基本計画等を踏まえて、文科省として行うべき研究開発成果の普及・活用の促進をはじめとする産学官連携の推進や地域が行う科学技術の振興に対する支援に関する重要事項について審議を行う。

- ・スタートアップ・エコシステム拠点都市の形成に向けた動きや、地域の中核となる大学の振興等に関する政府での検討状況を踏まえつつ、主に、大学発スタートアップ創出・本格的な組織対組織の産学連携等に関する検討を行う。

第 11 期の活動状況について

生命倫理・安全部会

科学技術基本法改正や第 6 期科学技術・イノベーション基本計画に関する動向等を念頭に置きつつ、以下のとおり、第 11 期の活動を行った。

- ・ 個人情報保護法の令和 2 年改正及び令和 3 年改正等を踏まえ、以下の倫理指針について見直しを行い、改正案について了承した。
 - ・ 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針
 - ・ ヒト ES 細胞の樹立に関する指針
 - ・ ヒト ES 細胞の使用に関する指針
 - ・ ヒト iPS 細胞又はヒト組織幹細胞からの生殖細胞の作成を行う研究に関する指針
 - ・ ヒト受精胚の作成を行う生殖補助医療研究に関する倫理指針
 - ・ ヒト受精胚に遺伝情報改変技術等を用いる研究に関する倫理指針
- ・ 令和 4 年 2 月に総合科学技術・イノベーション会議 (CSTI) で決定された『「ヒト胚の取扱いに関する基本的考え方」見直し等に係る報告 (第三次)』を踏まえ、以下の基礎的研究の取扱いについて関係指針の見直しの検討を行った。
 - (1) 遺伝性・先天性疾患研究を目的とした新規作成胚にゲノム編集技術等を用いる基礎的研究
 - (2) ミトコンドリア病研究を目的とした新規作成胚に核置換技術を用いる基礎的研究

(第 66 回総会で報告した活動) 第 66 回総会資料から転記

第 6 期科学技術・イノベーション基本計画等に関する動向等を念頭に置きつつ、具体的には以下の検討事項の審議を進める。

- ・ 個人情報保護法の令和 2 年改正及び令和 3 年改正の見直しの状況等を踏まえ、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」等の関係指針の見直しについて検討する。
- ・ 総合科学技術・イノベーション会議 (CSTI) 生命倫理専門調査会で検討中の以下の基礎的研究について、今後、その取扱いの方向性を踏まえ、関係指針の見直しを検討する。
 - (1) 遺伝性・先天性疾患研究を目的とした新規作成胚にゲノム編集技術等を用いる基礎的研究
 - (2) ミトコンドリア病研究を目的とした新規作成胚に核置換技術 (卵子間核置換) を用いる基礎的研究
- ・ このほか、ライフサイエンスにおける生命倫理及び安全の確保に関する動向等を踏まえた調査・検討を適時実施。

第 11 期の活動状況について

国際戦略委員会

科学技術基本法改正や第 6 期科学技術・イノベーション基本計画を踏まえた、第 11 期の活動実績は以下のとおり。

- ・第 6 期科学技術・イノベーション基本計画において、科学技術の国際展開に関する戦略を策定することとされたことを踏まえ、令和 3 年 3 月から 6 月にかけて審議を行い、令和 3 年 6 月に社会の変化を踏まえ、知の発展による世界貢献を含む国際交流・協力の目的と考慮すべき観点や取組の方向性について再確認・整理した「科学技術の国際展開の戦略的推進に向けて」を取りまとめた。
- ・上記の「科学技術の国際展開の戦略的推進に向けて」に基づいた、より具体的な施策の方針として、令和 4 年 3 月に「科学技術の国際展開に関する戦略」を取りまとめた。
- ・上記戦略を基にした新たな国際共同研究事業（令和 5 年度要求）の事前評価を令和 4 年 8 月に実施した。

(第 66 回総会で報告した活動) 第 66 回総会資料から転記

- ・第 6 期科学技術・イノベーション基本計画において、科学技術の国際展開に関する戦略を策定することとされたことを踏まえ、令和 3 年 3 月から 6 月にかけて審議を行った。
- ・審議を踏まえ、令和 3 年 6 月に社会の変化を踏まえ、知の発展による世界貢献を含む国際交流・協力の目的と考慮すべき観点や取組の方向性について再確認・整理した「科学技術の国際展開の戦略的推進に向けて」をとりまとめた。
- ・同とりまとめに基づいた施策の具体化について、必要に応じて議論を行う。

第 11 期の活動状況について

情報委員会

科学技術基本法改正や第 6 期科学技術・イノベーション基本計画を踏まえた、第 11 期の活動実績は以下のとおり。

- Society 5.0、データ駆動型社会への変革に対応し、研究の DX とそれを支える学術情報基盤のあり方や、情報分野における研究開発の推進方策に関して議論を行い、「第 6 期科学技術・イノベーション基本計画を踏まえた情報分野の振興方策」を取りまとめた。
- 次世代の計算基盤、データ処理環境及びネットワークに係る事項について検討するために次世代計算基盤検討部会を設置し、またオープンサイエンス等の動向を踏まえた、これからの大学図書館に求められる役割や機能等に係る事項について検討するためにオープンサイエンス時代における大学図書館の在り方検討部会を設置し、これらの下部組織を中心に学術情報基盤のあり方に関する検討等を行った。
- 本委員会の所掌に属する課題について、研究データ利活用エコシステム構築事業の事前評価を 1 件、Society 5.0 実現化研究拠点支援事業の中間評価を 1 件、富岳システム開発の事後評価を 1 件行った。また、情報分野の研究開発プランを策定し、これに基づきプログラム評価の試行を行った。

(第 66 回総会で報告した活動) 第 66 回総会資料から転記

- Society 5.0、データ駆動型社会への変革に的確に対応し、研究の DX とそれを支える学術情報基盤のあり方や、情報分野における研究開発の推進方策に関して議論を行う。
- 次世代計算基盤検討部会等の下部組織を設置し、次世代計算基盤など学術情報基盤のあり方に関する検討等を行う。
- また、本委員会の所掌に属する課題の事前・中間・事後評価を行う。
- なお、上記の議論や評価を行うに当たっては、「総合知」の創出・活用に留意する。

第 11 期の活動状況について

人材委員会

科学技術基本法改正や第 6 期科学技術・イノベーション基本計画を踏まえた、第 11 期の活動実績は以下のとおり。

- ・第 6 期科学技術・イノベーション基本計画（令和 3 年 3 月閣議決定）等を踏まえ、博士後期課程学生を含む若手研究者への支援方策に関し幅広く検討した。
- ・特に博士人材のキャリアパス確保について中心的に議論を行い、社会の変容も踏まえ、博士人材の育成・活用のために国や大学、産業界が取り組むべき事項等について検討した。なお、検討に際しては、若手研究者や大学関係者、企業等に対するヒアリングを行った。
- ・その他、女性研究者や URA 等の多様な研究人材の育成・支援の在り方等についても、ヒアリングの内容等を踏まえ検討を行った。
- ・今期の検討を踏まえ、「第 11 期科学技術・学術審議会人材委員会 審議まとめ（論点整理）」をとりまとめる予定。

（第 66 回総会で報告した活動） 第 66 回総会資料から転記

- ・第 6 期科学技術・イノベーション基本計画等を踏まえて、科学技術・イノベーション人材の育成・確保策について、審議を進める。
- ・特に、今期の人材委員会においては、博士後期課程学生を含む若手研究者への支援方策の在り方について幅広く検討を行うことを予定。
- ・具体的には、博士人材のキャリアパス確保について中心的に議論を行い、博士人材の産業界への進出や社会的地位の向上等に向けて、政府としての施策や関係機関との連携方策などについて検討し、とりまとめる。
- ・なお、検討にあたっては、若手研究者や大学、企業等に対するヒアリングを実施予定。
- ・その他、第 10 期人材委員会で策定した「ポストドクター等の雇用・育成に関するガイドライン」のフォローアップや、女性研究者、URA 等の多様な研究人材の支援の在り方についても、必要に応じて議論を行う予定。

第 11 期の活動状況について

大学研究力強化委員会

科学技術基本法改正や第 6 期科学技術・イノベーション基本計画を踏まえた、第 11 期の活動実績は以下のとおり。

- ・ 科学技術イノベーションの源泉となる大学等の研究力強化を図るため、大学等における科学技術に関する研究開発に関する重要事項について、幅広い観点から調査検討を行うことを目的として、令和 3 年 10 月 13 日、科学技術・学術審議会に「大学研究力強化委員会」が設置された。
- ・ 令和 3 年 12 月 1 日に第 1 回会議を開催以降、「多様な研究大学群の形成」に向けて、大学の強みや特色を伸ばし、研究力や地域の中核としての機能を強化する上で必要な取組や支援策の議論が重ねられた。
- ・ 会議では、大学の研究力向上に向けた本質的な課題に関する問題提起や大学を中核とした好循環を生み出すための具体的な好事例の紹介など、活発に議論が行われるとともに、国際卓越研究大学法に基づく基本方針の策定や地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージの拡充に向けて、機動的に検討を実施した。

(第 68 回総会で報告した活動事項) 第 68 回総会資料から転記

- 世界と伍する研究大学の実現に向けた大学ファンドの創設について
- 地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージについて
- 大学の強みや特色を伸ばす取組の強化（大学研究力関係）について